

安全くん

36

「小さな火の粉で大火災、
増改築には火の用心」の巻



インターネットホームページ「安全くんネット」も
御覧ください。

<http://www.nishio-rent.co.jp/anzenkun/>

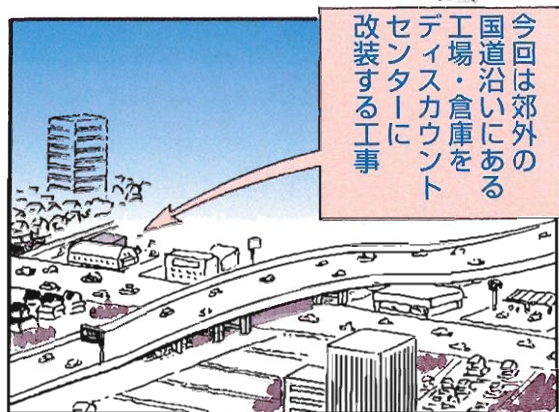
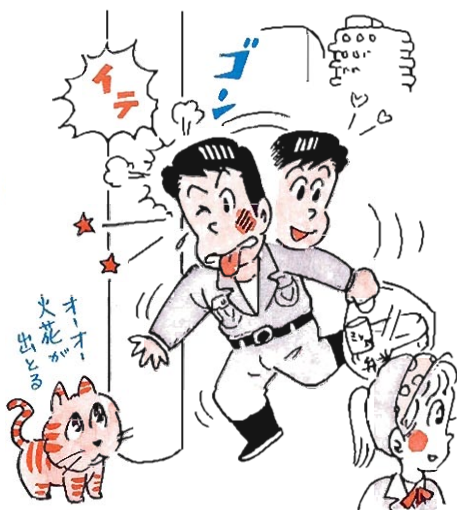
〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

とれ行け!! 安全くん

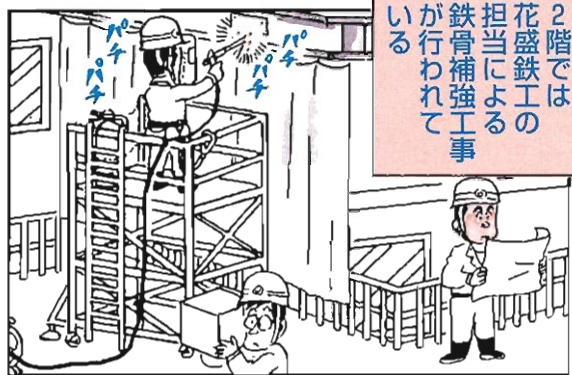
画 中村よしのぶ

連載 その36

「小さな火の粉で大火災、 増改築には火の用心」の巻



午後4時半
もうすぐ日が暮れようとしている





解説コーナー バッテリー式小型高所作業車の充電は適正な電源確保から!

屋内用高所作業車（バッテリー式）は、バッテリーが十分に補充電されていないとその能力を発揮できません。作業終了後、充電作業を行う場合次の点を確認し、正しい充電電源を確保して下さい。特に仮設電源や夜間主電源を落とす作業場は、事前に充電時間も組み入れて作業計画を作成しましょう。

《充電前の確認事項》

(1) 充電に必要な元電源は確保されていますか？

充電の開始時は最大の電流が流れます。最大電流は作業車1台当たり約8〜15A（機種により異なる）です。

●タコ足配線では、電圧が低下し充電できません。

●電源線は30m程度のコードリール? コまでです。連結させては電圧が低下し充電できません。

(103〜95Vで適正。104V以上では充電器の焼損の原因となります。95V以下では充電できません。)

(2) バッテリー液が不足していませんか？

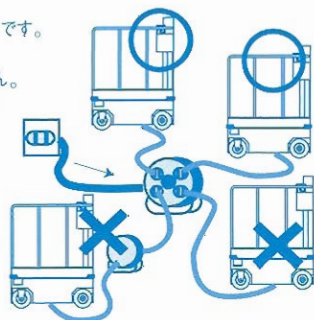
バッテリー液は蒸発して減ります。毎日・夕方の充電前に液量を点検し、不足時は蒸留水を補充してください。

(3) その他注意事項

バッテリーは完全に放電してしまうと、充電器が作動しない場合があります。バッテリーの過放電防止の為に、ご使用時は次の点をご注意ください。

●午前中の作業頻度が激しい場合、昼休み中でも充電してください。

●一日の使用量が少ない場合でも作業終了後は充電してください。





解説コーナー 工事現場の防火対策①

(1) 防火区画等

1. 工事部分（増築工事等）と既存部分は防火壁で区画する。
2. 防火戸、防火シャッターの近くに可燃物を置かない。
3. 防火区画を大量の電線が貫通する部分は火災延焼防止の措置を施す。
4. ダクト工事では工事箇所前後、上下部分に防火ダンパーを設ける。

(2) 喫煙管理

1. 作業中は、くわえタバコ作業を厳禁し、安全な場所に喫煙所を指定する。
2. 灰皿は水を入れた大きいものを用意し、作業終了後責任者が確実に処理する。
3. 特に引火性危険物を使用する作業場近くでは禁煙を厳守する。



(3) 作業用火気管理

1. 溶接・溶断作業の火花が飛散、落下するおそれのある場所の周囲は可燃物を撤去し、不燃材料で囲うとともに、消火器・砂またはバケツを備える。
2. 溶接用ガスボンベは運搬台車にのせ、チェーン掛けなどとして使用するとともに、いつでも引き出せるようにしておく。
3. アスファルトやトーチバーナー等の溶解作業中はみだりに作業場所を離れない。
4. 工事用シートは防災処理の施されたものを使用する。
5. 工事用シートに接近して溶接作業など場合は、近接の建物などへの火花飛散防止を徹底する。（近隣火災の出火防止）
6. たき火等臨時に火気を使用する周囲に危険物や可燃物を近づけない。また大量の燃料を持ち込まない。
7. 強風時には、たき火を禁止する。
8. 終業時には、責任者を定め現場火元（残火、取灰）の完全消火を確認する。

ガンさんのワンポイントレッスン

増改築工事、火災の危険要因

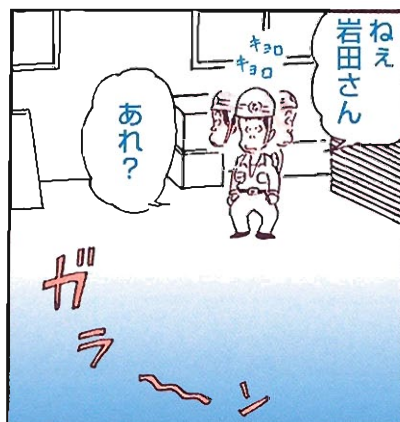
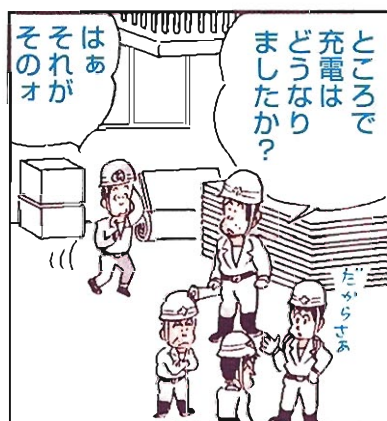
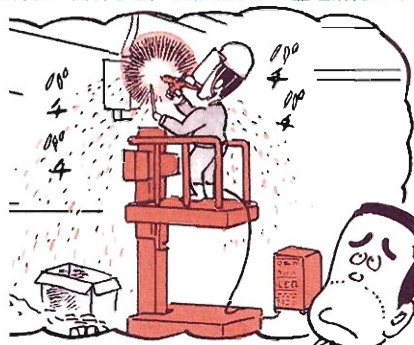
増改築工事の場合には、一方で営業を続けながら工事をする事が多く、このときに火災すると一般利用者への影響が大きくなります。また平常時と異なるので平常の訓練では対応できないのが大きな弱点となります。デパート、ホテルなどの大きな災害は工事中に起きたものが多く、施工中の火災危険には十分な注意が必要です。

建物工事の主な火災危険の要因として次の事項があげられます。

- 工事中は防火区画が不完全であり、警報設備や消火設備も機能しないことが多い。
- 工事現場では溶接・溶断作業などの直接火花を発生する機器が使用される。(火花の飛散や落下による近隣火災の要因)
- 工事には引火性の塗料や接着剤などの危険物が使用される。
- 工事に伴う燃えぐさ(内装材料、資材など)が雑然とし、整理清掃が不徹底となりがちである。
- 工事の進行に伴い現場の状況が日々変化する。
- 工期に間に合わせるため現場の防火管理がおろそかになり易い。

最近では、工事中の建物使用についての防火管理体制が整備されてきていますが、工事の火災危険には十分な配慮が必要と言えます。

出典：建物増改築工事の防火対策（東京海上火災保険 発行）



貸RENT
します

NISHIOの鉄骨加工機器

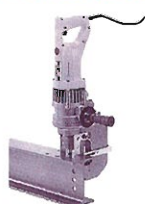
鉄骨のボルト穴加工に、機動性に優れたコンパクトタイプで現場施工にも楽々。

☆商品選定のワンポイント

- アトラエースは専用刃先を使用します。個数は150~200個/本が目安です。
- 板厚10mm以下のアングルや小梁に使用されるH形鋼、C形鋼の穴あけ加工は油圧パンチャーでも対応できます。
- 電源コードが長すぎたり、電工ドラムを使用すると電圧降下を招き機能を十分に発揮できません。延長する長さにより線径を選択し適切な電源確保をしましょう。

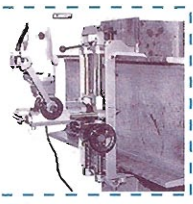


● アトラエース



● 油圧パンチャー

スライダー
C形鋼、H形鋼との重ね
切り穴あけ加工へ。
一人で据え付けから作業
まで可能です。



※穴形状、鋼材等により、使用機材が異なります。
事前にお問い合わせください。

お問い合わせは、最寄りの各営業所まで



『もってけ屋』改装
12月1日
オープン予定



貸RENT NISHIOのスーパーリフト
(手動式ハイリフト)

高所への荷上げ：据付作業を安全に 省力化いたします。

■特長

- 荷重290kgのコントラクターと 360～450kgのアドバンテージの 2タイプ
- 持ち上げられる高さで2m～7.3m までの9機種
- フォークの形状やベースの仕様 など用途に応じて選択が可能

お問い合わせは最寄りの営業所まで



解説コーナー 工事現場の防火対策②

(4) 電気設備

1. 電気機器に雨露が進入しないようにする。
2. 仮設用キュービクルは架台に完全に固定し、動物等が侵入しないようにする。
3. 電気配線は工事材料等により荷重のかからないようにし、やむを得ず床面上に露出させる場合には丈夫なキャブタイヤケーブールを使用するなど損傷を受けないようにする。
4. たこ足配線はしない。
5. 作業時以外は電源を遮断する。
6. 配線および負荷の容量に応じた自動遮断器を適正箇所に配置する。
7. 電気工具類は落下防止用のひもなどを取り付けて使用する。
8. 夜間作業を行う際は、作業に応じて十分な数、明るさの照明を設ける。特に、
 - 足場および架設通路。
 - キュービクル、遮断器など作業員が接近すると危険な場所。
 - 現場周辺の安全通路。

(5) 危険物等

1. 危険物（塗料など）の持ち込みは必要最小限とする。
2. 塗装作業など可燃性蒸気が滞留する場所では十分に換気する。また近くでは火気を使う作業は行わない（危険物の取扱中は火気の使用を厳禁）こと。
3. 吹き付け塗装の際には静電気が発生するので、除電措置を講ずる。
4. 塗料などを拭いたウエスなどは金属製容器（蓋付き）に入れて処理する。
5. 引火または爆発性の危険物は通路端など転倒し易い箇所に絶対に置かない。

(6) その他

1. 消火栓、火災報知器など消防設備の周りは資材を置かないよう消火活動のスペースを確保する。
2. 資材、残材など燃えやすいものはできるだけ建物外に放置せず整理する。（放火防止）
3. 工事現場内の各種標識（防火、禁止、注意標識）は、作業員にその意味を周知させ、これを厳守させる。

